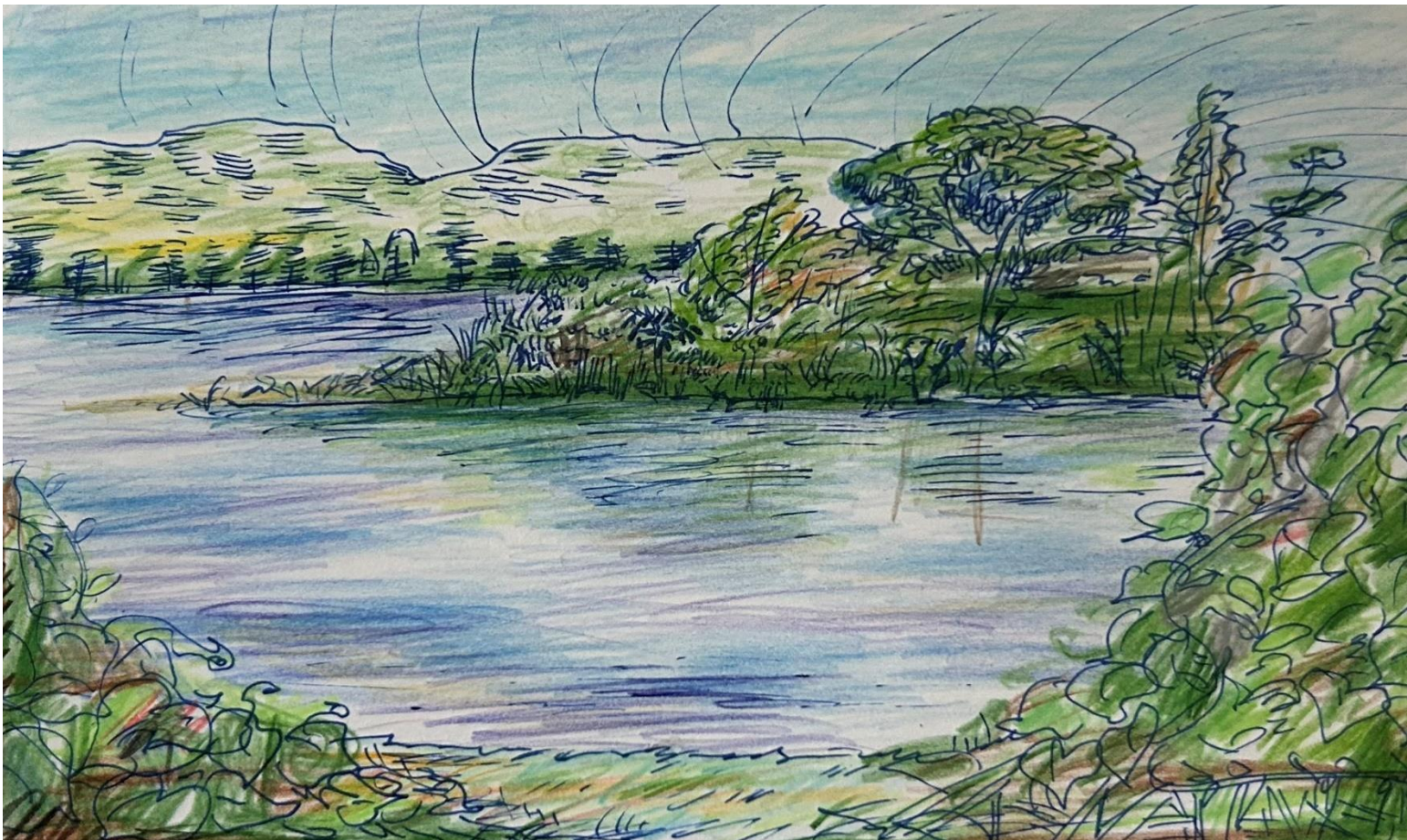


令和六年度 第二十五回 「秋の歌会」 歌集

## 佐鳴台の詩



浜松市立佐鳴台中学校



1 年生作

目次

表紙絵……………3年生作

口絵……………1

目次……………2

テーマ……………3

生徒作品

一年 俳句……………4

短歌……………10

二年 俳句……………12

短歌……………18

三年 俳句……………19

短歌……………26

職員作品……………28

テーマ

「夢」「友達」

「地域」「自然」「緑(つながり)」



2年生作

▼一年生▲

〈俳句〉

彼岸花 情熱強く 生きてゆく

秋の風 イチョウが舞う ゆらゆらと

佐鳴湖は 自然たくさん 秋の色

だんだんと 秋色にそまる イチョウの葉

扇子の葉 だんだん染まる 秋の色

佐鳴湖の 水面をなでる 秋の空

秋の波 涼しい風と 青い空

秋なのに 微妙に暑く 夏気分

木々揺らし 落ち葉降らせる 秋の風

行き渡る 木々の紅葉 湖に

佐鳴湖の コオロギたちが とれません

佐鳴湖で 秋の風に たそがれる

落ち葉舞い すすきも揺らぐ 秋の風

いい天気 散歩びよりだ いいよな

秋の水 おだやかすぎて ねむたいな

美しい 秋の佐鳴湖 素敵だね

もみじの木 散り散りゆく葉 秋来たる

秋の風 ゆらりゆられて 舞うとんぼ

葉が染まり 過ぎてゆく夏 来たる秋

涼しげな 空舞いおどる 赤とんぼ

佐鳴湖は 自然たくさん きれいすぎ

秋の風 きれいな湖 憩いの場

キラキラと 秋の佐鳴湖 綺麗だな

秋の風 葉っぱがひらり 虫の声

佐鳴湖の さわやかな風 秋の風

秋麗 色づく葉っぱ 舞い落ちる

秋の風 きもちがよくて ねむくなる

よい風と きこえてくるよ 波の音

落ち葉見る 秋風匂う 佐鳴湖よ

秋の空 水面の上に ボート浮く

秋の風 葉っぱが落ちる 佐鳴湖だ

風吹いて 佐鳴湖の波 さわやかに

秋の日に 佐鳴湖に響く 友の声

秋の空 私みたいに きれいだな

涼しげに ゆらゆらゆれる イチョウの葉

秋の空 紅葉色づく ひらひらと

佐鳴湖の 緑に茂る イチョウの葉

佐鳴湖に 暑さのこる セミの声

大自然 草がいつぱい揺れていく

佐鳴湖に 秋の訪れ ハロウィンだ

ひらひらと 木から降るのは 黄色の葉

笑い声 秋風とともに ながれてく

見上げれば 木の葉かつ散る 銀杏かな

秋麗に 咲いた笑顔の そばに碧

佐鳴湖の 紅葉を待つ 赤トンボ

佐鳴湖に かもと輝く 青い波

木漏れ日の 銀杏色づく 秋の予感

そよ風に 銀杏が揺れる 晴れた日に

佐鳴湖の 秋の訪れ 綺麗だな

清青の 湖面に響く 虫の声



1年生作

## 〈短歌〉

日影では 秋を感じる 日向では なつを感じる おかしな秋だ

佐鳴湖の 過去の栄光 もう暗い 今は深い青へと 落ちてゆく

佐鳴湖の 過去にすがれど もう遅い あの夏風は 旅をも知れず

川のながれ たいようの光 風がすずし 私自身のさなるこ

佐鳴湖は 自然いっぱい いいところ 生物もいて 香りたくさん

湖の とびらひらける 秋の道 草木を照らす スポットライト

澄んだ空 湖面波立つ 遠江 落ちる落ち葉に 顔をうずめる

月初め 今日の舞台は 草むらだ 朝方に響く 虫たちの声

秋香る 湖面は静か ゆったりと 心癒され リフレッシュ

佐鳴湖の 少し色付く 紅葉が 見る人達に 秋を伝える

秋の空 木陰の隙間 日差し指す 虫たち奏でる 合唱団

夏終わり 草むら揺れる 佐鳴湖 秋の兆しに 虫の音響く

佐鳴湖の 秋の湖岸に 紅い葉が 落ちて集まり 紅い落ち葉だ

秋の風 たれた耳の 小型犬 すずむ姿が 超かわいい



1年生作

▼二年生▲

〈俳句〉

あきの川 かれはぶかぶか ながめてる

色変わり きれいに映える いちようの木

太陽と 子どもを包む 秋の風

秋風に 枯れ葉はらはら 模様替え

秋空と きらきら光る 佐鳴の湖

木々からは 緑無くなり 紅葉かな

風に乗り 枝から飛んだ イチョウかな

青葉が 色付く季節 秋のうみ

秋きてよ すすしい風が こいしいよ

木の葉散る 秋の風吹く 心地よき

佐鳴湖の 自然の空気に 包まれる

葉の色が 変わりはてて 塵となる

見渡すと 緑ばかりで これは夏？

秋の風 お魚さんが とびはねる

見上げれば 空一面に 秋の色

見渡すと 色がつきたる 秋の木々

紅葉の 木風に吹かれて ゆらゆらと

青い葉が 時経つにつれ 金色に

秋風に 揺らぐ葉々 通りけり

足踏めば カサコソ音が 響いてる

日差し刺す もうすぐ来るかな 冬隣り

バシャバシャと すずしく響く もう秋だ

秋麗 水面の上に 落ちる花

秋空に 色あざやかな トンボ舞う

秋の空 見飽きないほど 美しい

秋初日 夏の暑さに もみじなし

暑い時期 秋は遅いな 早く来て

美しき 紅葉映る 佐鳴湖よ

葉が染まり 涼しげな風 訪れる

ゆび出せば そこに止まるか 赤トンボ

青空に ふわりふわりと 飛ぶとんぼ

さなる湖で 魚とデート 楽しいな

岩の影 ひっそり潜む 秋の小魚

風が吹く 葉っぱが落ちる ああ秋だ

佐鳴湖の 自然が少し 変わってく

一切の 紅葉見ない 秋景色

追い越して 早く早くと 赤とんぼ

佐鳴湖で ほんとに秋か とぶトンボ

森の木々 紅葉はじめ 秋の色

赤とんぼ 秋を感じる 涼しい日

秋風の 涼しい風が 吹いている

秋風を 感じさせるよ 佐鳴湖が

足元に 青いどんぐり 秋気あり

秋の風 水面に舞う 魚達

秋の川 カニを見つけた あちこちに

佐鳴湖の 自然な緑 きれいだな

秋の日に 湖面にうつる 青き空

紅葉に 心地良い風 秋が来た

鳥が飛ぶ 自然感じる 秋の空

佐鳴湖で 秋風感じ 友笑う



2年生作

## 〈短歌〉

佐鳴湖の 緑に囲まれ ひっそりと 一つの紅葉 秋の訪れ

目の前の 緑の水と しげる草 奥に空色 佐鳴湖光る

水切りの 小石が跳ねる 水面と 秋風を受け 飛ぶ赤とんぼ

さわやかな 秋の風に 流されて ここちよくとぶ 赤とんぼ

緑の葉 見上げる空は キツラキラ 黄色や赤に 染まればいいな

穏やかな 青空渡る 白い鳥 優雅に進む 自分の道を

▼三年生▲

〈俳句〉

だんず川 映り消えゆく 秋とんぼ

風に乗り 枯れ葉冒険 自然の地

トンボみる 視界にまじる おらさきが

だんず川 緑かこまれ 秋の雲

トンボかな 草むらの中 何匹も

佐鳴湖は とんぼが多く 渋滞だ

樹の上で 紅葉溶けこむ カラスさん

秋うらら とんぼと共に 澄んだ空

佐鳴湖で 秋の小風と 歌探す

佐鳴湖に ようやく秋が 訪れる

若干の 紅葉まじる 佐鳴湖だ

コスモスや 野原佇む 紅一点

秋風で 木々が揺れるは 浅葱色

すぐそこに 秋の足音 てくてくと

秋の湖(うみ) 蜂の攻撃 ざわめいた

赤とんぼ いすぎ多すぎ ハチまじり

寝転んだ 空をかけてく 赤とんぼ

赤とんぼ 空の舞台で 舞っている

市街地に 秋の気配が 降り積もる

そよ風に 吹かれ飛び交う 赤とんぼ

佐鳴湖の 空いちめに 鰯雲

おかしいな 季節に合わぬ 秋日差し

秋の虫 踊って舞うよ 空の下

秋風に 混じってなびく 我の髪

秋晴れの お空の下で 君笑う

秋の風 葉がひらひらと やってくる

秋の風 ゆらゆら葉っぱ ゆれ動く

穏やかな 風に揺れてる 彼岸花

赤とんぼ いる割になぜ クソ暑い

赤トンボ いっぱい飛んで 綺麗だね

未だ来ず 秋の訪れ 感じれず

秋に草 辺り一面 生い茂る

穏やかな 風吹く昼の 虫の声

秋晴れの 涼しい風に トンボ飛ぶ

竹の春 道まんべんに 朱の色

秋晴れの 田舎の道で リラックス

澄みわたる 空と残暑が 眩いな

蜻蛉舞う 雲ひとつない 風しずか

トンボ飛ぶ 佐鳴湖染める 秋の候

佐鳴湖の 秋の彩り 舞い上がる

赤とんぼ 昼の光に 舞い踊る

秋の空 飛び交う蝶と 澄んだ青

秋風の 澄んだ空気 で 動く雲

日陰なき 残る暑さに とんぼ飛ぶ

どんぐりの ツヤツヤみつけ これぞ秋

空の下 とんぼが跳ねる 秋が来た

草花が 揺れうごくとき 秋麗

秋の風 つめたい空気 運んでく

スケッチで 描きたい秋が 見あたらず

見上げれば 風に追われる 赤とんぼ

赤とんぼ 涼しい風を 運んでく

佐鳴湖に 吹き入るのは 秋の風

風吹けば 舞立つとんぼ ゆらゆらと

スケッチを しようとするが 暑さ負け

軟風で 草揺れ動く 秋麗

赤とんぼ すいすいはしる 徒競走

秋風が 湖面をなでる 佐鳴湖だ

草ばかり 日陰もないし とんぼいる

清涼な 時も忘れる 秋麗よ

秋の風 揺れる草花 綺麗だな

佐鳴湖や 秋風触れて みな笑顔

赤とんぼ 大きな空に 映える秋

秋風に さざ波ひかる 佐鳴湖で

佐鳴湖に 秋の魔法が かけられた

佐鳴湖の みつけたあきを 拾うべく

秋の日に 草しかないな 野原の地

草生える 川が流れる 秋の空

## 〈短歌〉

とんぼやら ばったが群れを 作ってる そこに飛び込む 一人のともよ

寝転んで 秋晴れ見上げ 蟻気分 わずかな草が でっかい森に

暑すぎて 頭が痛い いつもだよ 友にいわれて ははっと笑う

なごやかな 湖(うみ)の都を 歩ければ カサカサという 秋の足音

青い空 朝の光に 照らされて 寝ぼけまなこの 受験生たち

さなるこは くさがおおいよ はだかゆい でも友だちと 走りまわるよ

佐鳴湖の 真つ青空に 紅葉の カラフルな色 美しいかな

人々を 包む自然の 優しい目 見守っている 一輪の花

秋の風 季節が変わり 嬉しいが 模試にテストに 受験近づく

十月の ゆらめく光 佐鳴湖の 生える草木は まだあおおと

小虫追う 赤いトンボや ツーツーと 下で狙うは 学生の群れ

はるかなる 自然のそばで 書いてゆく 佐鳴湖もまた 趣がある



3年生作

▼職員▲

〈俳句〉

秋天に アヤナミブルー あふれをり

秋感じ 黄葉を見上げる 澄んだ青

音もなく 舞う落葉に 澄みし空

秋晴れの 水面に写る 友の顔

秋の風 湖畔に集ふ 児の笑顔

歌を詠む 揺れる水面と 秋風と

秋空に 三年分の 笑顔かな

湖の ひとり苦しむ 秋早(ひでり)

あおあおと 草花茂り 秋よこい

佐鳴湖に 秋風たなびく 赤とんぼ

名残り暑の 佐鳴の湖辺 舞うとんぼ

佐鳴湖や 吾子の心と 秋の空

佐鳴湖の 秋澄む空に 赤とんぼ

友の声 湖畔を渡る 風爽か

赤蜻蛉 隣に湖 笑い声

秋は来(き)ぬ 秋の歌会 秋は来(こ)ぬ

## 〈短歌〉

紅葉と 落ち着き重なる 二年生 ちよつと大人に なった気がする

窓越しに 通り過ぎ行く 笑顔見つ 水澄むのかな 君の佐鳴湖

佐中生 三年の成長 願いつつ 佐鳴の宝 伸びゆく敬創

天空に 我が物顔で トンボ舞う されどなごりの 暑さ戻れり



3 年生作